



福長町の空き家の 樹木伐採へ！ 住民の喜びの声とどく。



「庭の大木が伸び放題で放置され、うちの家が押しつぶされる」「毎日、生きた心地がしない」など、住民のみなさんの切実な声が寄せられました。
くらた共子は、住民のみなさんと一緒に、京都市の担当局に緊急の対策を求めてきました。
空き家の新たな所有者による樹木の伐採が行われ、近隣住民に青空が広がりました。

大宮消防出張所の 廃止にストップを！

成逸・乾隆・嘉樂・西陣・
桃菌・正親の6学区を担当

京都市は、平成25年度に大宮消防出張所の耐震改修の実施設計を行いました。このことは、京都市が大宮消防出張所は住民の安全を守るために必要だと考えていたことを示しています。今になって、「アスベストが見つかり、費用がかかるのでやめた」という理由は認められません。

しかも、消防体制を縮小しながら、「機能を強化する」などと詭弁を使い、住民を抑え込むやり方は、許されないのではないのでしょうか。京都市は税金のムダ遣いをやめて、消防体制の維持・拡充こそ図るべきです。



京都市「宿泊施設拡充・ 誘致方針」

ホテル建設ラッシュで、
新たなまち壊し

みなさんから、日々、簡易宿所の建設等の苦情や相談が寄せられています。

京都市は、国の訪日観光誘致目標をもとに、高級ホテル等の誘致をねらっています。問題は、本来ホテルが建てられない住居専用地域、工業地域、市街化調整区域にまで建設を許可しようとしていることです。

過大なホテル誘致建設は新たなまち壊しにつながります。しかも、京都経済の活性化につながりません。

観光政策は、既存の旅館等を活かし、車の呼び込みを規制し、京都の良好な環境を守り、地域経済に結ぶ方策とすることが必要です。

古都・京都

はいま...



記者会見で「見解」を発表（10月31日）

このまちに暮らして——「今出川堀川公団」とともに

「85歳、90歳の我々は、今さら他のところでは暮らせない」

「入居契約の時に、京都市との借地契約が平成34年で切れるなどとは聞いていない」

「2年前の退去通知なんて、とんでもない」と悲痛な声が出されました。

UR住宅の担当者は、「みなさんの要望を持ちかえらせていただきたい」と返答しました。住民のみなさんは、京都市にも、要望しておられます。

住まいの不安の解消に、くらた共子は力を尽くしたいと思います。



今出川堀川公団内にて
UR住宅担当者との懇談（10月27日）

くらた共子の

みみを
すませば

